



ユーザーマニュアル | 日本語 vol.3



mod.# V125 Special / V200 Special

保証書

Lambretta

お名前 _____ 様

私は、以下の車両識別番号（VIN）の Lambretta を、製造業者の基準に従って適切な状態で購入したことを証明します。

さらに私は、保証規定を読み、理解し、受け入れたことを証明します。取扱証明書の内容の明確な説明を受けました。

私は本書に署名することで、車両を購入した際に車両販売店から説明を受けたメンテナンスを定期的を実施することを確認いたします。また、現版の取扱証明書及びスペアキーを 2 本、ツールキットを受け取ったことを確認します。

私は全ての修理及びメンテナンス作業を Lambretta 取扱店によってのみ行われることに同意します。この条件が満たされない場合、保証の喪失につながる可能性があることに同意します。

車種： _____

VIN： _____

日付： _____

販売店

店名印、担当者名を明記



ようこそ Lambretta ファミリーへ。この度はランブレッタ製品をご購入いただき誠にありがとうございます。

お客様が購入された Lambretta は、我々の工場で多数の検査を受け、その品質が保証されています。

お客様の **Lambretta** の使用限度は、主にその運行方法及びメンテナンスに大きく影響を受けます。そのため、本マニュアルには、お客様に新しい車両をより深く知っていただき、より快適に使用していただくために役立つ複数のアドバイス及び説明がまとめられています。また、**Lambretta** の機能性を確認することは、Lambretta 販売店の重要な役割の一つです。

Lambretta は、熟練した技術力、専用工具及びオリジナルスペアパーツを保有するサービスパートナーの世界規模ネットワークを提供いたします。必要なこと、相談がある場合は **Lambretta** 取扱店にご連絡ください。

それでは新しい **Lambretta** との旅をお楽しみください。

取扱説明書に関する重要な情報

Lambretta

この取扱説明書の重要な情報はすべて、次の表記法で区別されます。

⚠ WARNING

必ず従わなければならない警告です。警告に従わない場合は、運転手、同乗者が重大な傷害を受ける、または死亡する可能性があります。

CAUTION

車両の損傷を防ぐための重要な情報を示します。

CAUTION

- ・ライダーによるメンテナンス / 取扱店によるサービス記録の追跡のため、車両が販売された場合を含めて、この取扱説明書を常に車両と共に携行してください。
- ・この取扱証明書には車両に関するすべての重要な情報が含まれていますが、メーカーが車両に対し設計及び品質の継続的な改善により、取扱証明書と車両間では違うところがある可能性があります。この取扱証明書に関してご質問がございましたら、車両購入店にご相談ください。

⚠ WARNING

お客様の安全のため、車両を操作する前にこの取扱証明書をよく読んでください。車両の制御、操作、および機能について適切な知識を習得してから操作をしてください。また、安全で適切な乗り方について運転訓練を行ってください。車両の定期点検とメンテナンス、及び運転手の優れた運転技術は、運転手の安全性を改善し、且つ車両の信頼性を向上します。

* 製品および仕様は予告なしに変更されることがあります。

目次



保証書	19	ヒューズ	33
前書き	1	灯火類	34
取扱説明書に関する重要な情報	2	トラブルシューティング	35-36
目次	3	清掃と保管	37
安全に関する情報	4-6	車両の清掃	37
車両の説明	7	保管	38
側面図	7	仕様	39
運転操作装置とディスプレイ	8	寸法	39
購入者情報	9	仕様	40-41
車両識別番号 (VIN)	9	保証に関する情報	42
ディスプレイと操作機能	10	サービスとメンテナンス	43
メインスイッチ	10	重要な情報	43
ダッシュボードユニット	11	メンテナンススケジュール	44
ハンドルバースイッチ (左側)	12	サービス記録	
ハンドルバースイッチ (右側)	13	メモ	
安全スイッチ	13		
ブレーキレバー	13		
燃料タンクキャップ	14		
燃料	14		
触媒コンバータ	14		
シート	15		
荷物収納ボックス	15		
リアキャリア	15		
サイドスタンド	16		
メインスタンド	16		
コンバインドブレーキ (CBS)	16		
アンチロックブレーキングシステム (ABS)	17		
運転前の確認	18		
運転前の確認表	19		
操作と運転の重要なポイント	20		
エンジンの始動	20		
発進	20		
加減速	20		
ブレーキ	21		
駐車	21		
エンジンのならし運転	21		
定期メンテナンスと簡易修理	22		
オーナーズツールキット	22		
バッテリーカバー	23		
スパークプラグ	23		
エンジンオイル	24		
トランスミッションオイル	25		
エアフィルター	26		
ECU	26		
スロットルケーブルの遊び	26		
タイヤ	27		
リム	28		
ブレーキレバーの遊び	28		
ブレーキパッド	29		
ブレーキ液	29		
ケーブル	30		
スロットルグリップとケーブル	30		
ブレーキレバーの潤滑	30		
メインスタンド / サイドスタンド	31		
フロントフォーク	31		
ステアリング	32		
ホイールベアリング	32		
バッテリー	32		

安全に関する情報

Lambretta

購入された Lambretta は二輪の車両です。安全な運転及び優れた操作は運転手の適切な運転技術に影響を受けます。運転手は、車両を利用する前に全ての必要な要件を知り、理解する必要があります。

運転手に求められること：

- ・ 車両の操作に関する全ての技術を習得し、知識があること。
- ・ この取扱説明書に記載されているメンテナンス要件を十分に読み、理解すること。
- ・ この車両を運転するために、認可された訓練を受け、法律で認められた免許を取得すること。
- ・ 車両の良好な状態及びその安全性を維持するためには、必要に応じて購入店もしくは取扱店に問い合わせをすること。

安全な運転：

- ・ 車両の安全性を確認するため、出発する前に必ず車両の点検をしてください。
- ・ 運転手は、同乗者を含めた積載制限に従ってください。

オートバイ事故の多くは、オートバイを認識できなかった自動車の運転手との間で起こるものです。

したがって：

- ・ 明るい色の服や保護効果のある服を着用してください。
- ・ 右左折の前に方向指示器を出し、交差点に近づいたら速度を下げてください。
- ・ 自動車の運転手から適切な距離を保ち、その運転手にオートバイがあることを認識させてください。
- ・ 自分の運転能力及び自分の限界を意識してください。
- ・ 運転する資格がない人に自分の車両を決して貸してはいけません。
- ・ 法律で認められた速度及び交通法に必ず従ってください。

- ・ 運転手と同乗者の乗車姿勢は、車両を安定してに制御するために重要です。運転中の適切な姿勢は、車両をより良くバランスさせます。
- ・ 運転中は両手でハンドルバーを握り、両足をフットレストに置き、真っすぐに座ってください。
- ・ 同乗者は、パッセンジャーグリップを握るか、運転手に直接つかまること、且つ両足がフットレストにあることを確認しなければなりません。
- ・ 飲酒後や違法薬物を使用した後の運転は厳禁です。
- ・ 購入された車両は、道路でのみ使用するように設計されています。オフロードでの使用には適していません。

プロテクションウエア

適切な衣服は事故が起きた場合に身体を守ることができます。

- ・ 汚れや雨から目を守るようにフェイスシールド付きのヘルメットを必ず着用してください。
- ・ 適切なジャケット、靴、手袋などの着用はより優れた保護効果を提供し、事故によるけがの程度を減らすことがあります。

安全に関する情報

Lambretta

- ・サイズの合わない服を着用しないでください。不適切な服装はコントロールレバーやホイールに引っ掛かり、重傷または事故を起こす可能性があります。
- ・運転中または運転後にエンジンや排気システムに触れないでください。これらは非常に熱くなり、やけどを引き起こす可能性があります。常に足と足首を覆う服を着用してください。

変更

メーカーが承認していない車両に対する変更、または元の部品の取り外しは危険であり、重大な傷害を引き起こす可能性があります。また、その変更によって車両の状態が違法になる可能性があります。

積載及び付属品

車両に付属品や荷物を加えることは車両の重量配分を変え、ステアリング操作やバランスに影響を与え、事故の原因になる可能性があります。

付属品／荷物を搭載する場合は特に注意し、以下の制限に従ってください。以下は、車両に荷物や付属品を追加する場合のガイドラインです。

積載

運転手、同乗者（許可される場合）、付属品や荷物の最大量は、最大積載量を超えてはならない。

最大積載量
(車両を除く)：
150 kg

この重量制限内で車両に積載する際は、次の点に注意してください。

- ・荷物と付属品はできるだけ低く、車両に近づけて搭載する必要があります。不均衡または不安定を最小にするためには、可能な限り車両の両側に重量を配分するようにしてください。
- ・運転前に付属品と荷物が車両にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

- ・ハンドルバー、フロントフォーク、またはフロントフェンダーには、大きなもの、または重いものを取り付けしないでください。これらはハンドル操作が不安定になり、ステアリングレスポンスの遅れを引き起こす可能性があります。

アクセサリ

純正アクセサリパーツはLambrettaの専用設計品です。必要な情報は取扱店に詳細を問い合わせてください。純正アクセサリ以外のものはメーカーの検査を受けていないため、付属品の選択、取り付けおよびその使用に関する責任はお客様が負うことになります。

アクセサリを取り付けるときには、次のガイドラインに注意してください。

- ・地上高、サスペンショントラベル、ステアリングに影響を与えたり、灯火類や反射板を隠したりするアクセサリまたは荷物を車両に取り付けしないでください。

安全に関する情報

Lambretta

- ・ハンドルバーまたはフロントサスペンションにアクセサリーを付けた場合、ステアリングに悪い影響を与えます。アクセサリーを取り付ける場合は重量増を避け、ステアリング操作を妨害しないようにしてください。この車両は、オンロード走行のみの目的としています。横風、または車両の方向転換を不安定にする恐れのある追加の荷物の搭載はしないでください。
- ・電装品アクセサリーを装備する場合は、車両の電気系統の最大容量を超えないことを、取扱店、購入店に相談、確認をしてください。このような付属品が正しく装備されない場合は、灯火類の光量の低減、エンジンの出力低下、または車両の損傷を引き起こす可能性があります。非常に危険です。

ガソリンと排気ガス

- ・ガソリンは燃性の高い物質です：
- ・燃料補給時は、必ずエンジンを停止してください。

- ・燃料補給時に、エンジンまたは排気システムにガソリンをこぼさないように注意してください。
- ・燃料補給時に、携帯電話を使用したり、喫煙をしないでください。
- ・屋内でエンジンを始動したり、短い時間であってもエンジンを始動したままにしたりしないでください。排気ガスは毒性があり、短時間で意識の喪失及び死亡の原因になる可能性があります。
- ・車両から離れる前に必ずエンジンを停止し、メインスイッチからキーを取り外してください。車両を駐車する時は次の点に注意してください。
- ・エンジンと排気システムは停止後もしばらく高温であるため、車両を歩行者や子供が触れない場所に停めてください。車両は転倒ないように、斜面や柔らかい地面に停めないでください。
- ・車両を可燃性のある場所の近くに停めないでください。
- ・ガソリンを飲み込んだり、ガソリンを目に入れたりした場合は、すぐに医師に相談してください。
- ・ガソリンが皮膚に直接つかないようにしてください。

- ・ガソリンが付着した場合は、付着部分を水でよく洗ってください。

安全な乗り方についてのその他のポイント

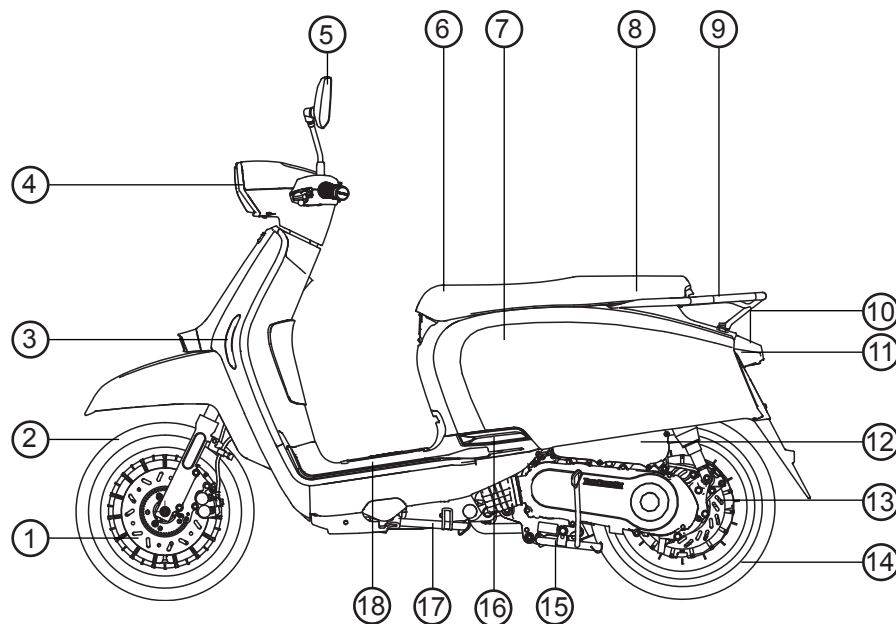
- ・曲がる前に方向指示器を出すこと。
- ・雨天時または濡れた路面、滑りやすい路面、玉石の上などを走行する際は、滑ったり転倒したりしないように速度を落とし、ブレーキを軽くかけてください。
- ・駐車車両の近くを通過する時は注意して走行してください。駐車車両の運転手はオートバイが通過していることに気づかずドアをあけてしまう可能性があります。

車両の説明

Lambretta

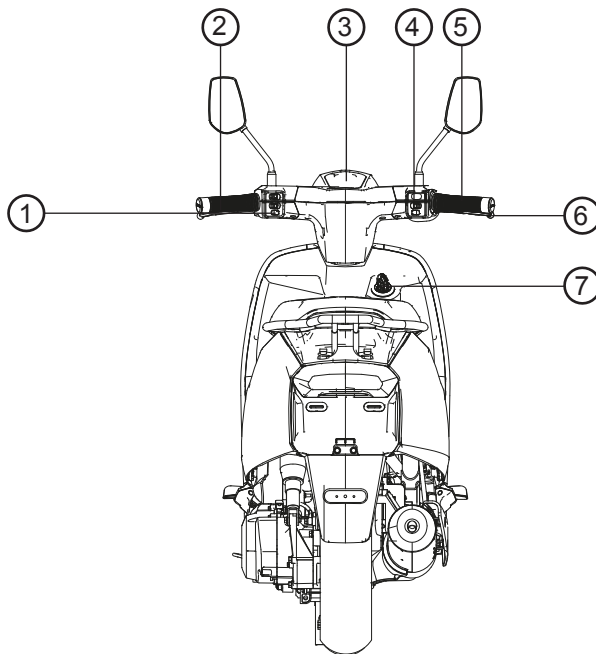
側面図

1. フロントディスクブレーキ
2. フロントホイール
3. フロントターンシグナルライト
4. ヘッドライト
5. バックミラー
6. シート
7. ラゲッジスペース
8. 燃料タンクキャップ
9. リアキャリア
10. テール / ブレーキライト
11. リア方向指示ライト
12. エアフィルターエレメント
13. リアディスクブレーキ
14. リアホイール
15. メインスタンド
16. パッセンジャーフットレスト
17. サイドスタンド
18. バッテリー



運転操作装置とディスプレイ表示

1. 左ハンドルバースイッチ
2. リアブレーキレバー
3. スピードメータユニット
4. 右ハンドルバースイッチ
5. スロットルグリップ
6. フロントブレーキレバー
7. メインスイッチ/ステアリングロック

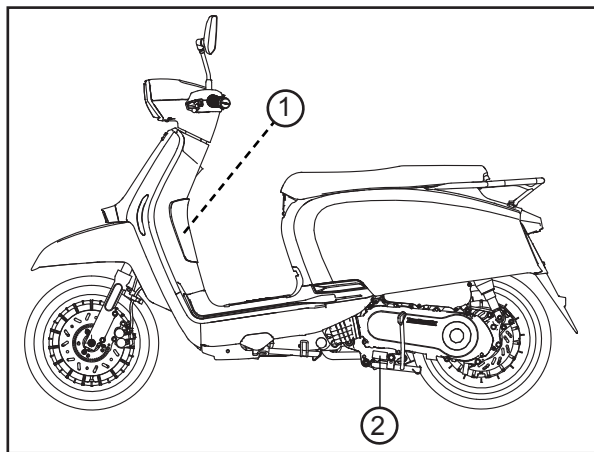


車両識別番号 (VIN)

交換部品を販売店に注文する際、または車両が盗まれた場合に必要となりますので、VIN（車両識別番号）を控えてください。

VIN はフレームにつけられ、グローブボックス (1) に配置されています。

エンジン番号はメインスタンドマウント (2) の近く、エンジンの下にあります。



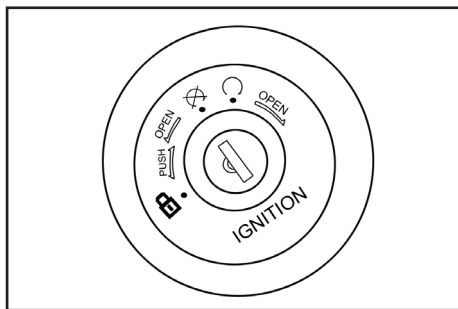
CAUTION

車両識別番号は、お客様のバイクを識別するために使用され、お客様の地域で車両の登録に使用することがあります。

ディスプレイと操作機能

Lambretta

メインスイッチ



メインスイッチは始動および灯火システムの制御、ステアリングロック、シートロックの解錠、グローブボックスの解錠に使用されます。以下は、それぞれの機能についての説明です。

オン

すべての電気回路に電力が供給され、エンジンを始動することができます。キーは取り外せません。

オフ

すべての電気系統の機能をオフにします。キーが取り外せます。

ロック

ステアリングがロックされ、すべての電気系統がオフになります。キーが取り外せます。

ステアリングロックと、ロックの解除をする：

1. ハンドルバーを左側に回してください。
2. キーを押して、押した状態で「」（ロック）の位置まで回してください。
3. キーを取り外してください。
4. ステアリングロックを解除するためにはキーを押し込み、「」（オフ）の位置まで回してください。

⚠ WARNING

車両が動いている時にキーをまたはの位置に回してはいけません。電源が遮断され、車両の制御が喪失される。または事故が発生する可能性があります。キーを回す前に車両が停止していることを確認してください。

シートを開く：

シートを開くには、キーが「」（オフ）の位置にある時に、キーを押さず反時計回りに回してください。

グローブボックスを開く：

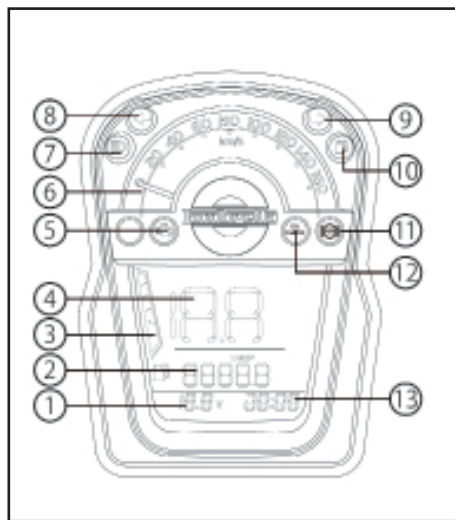
グローブボックスを開くためには、キーが「」（オン）の位置にある時に、キーを押しながら時計回りに回してください。

ダッシュボードユニットに採用されている液晶パネルは、その特性上過度の高温にさらされると一時的に真っ黒になり表示が見えなくなることがあります。一般に常温になると元の表示に戻りますが、過度の高温や低温は寿命に影響しますので、お避け下さい。

ディスプレイと操作機能

Lambretta

ダッシュボードユニット



1. 電圧計
2. 走行距離計
3. 燃料計
4. タコメーター
5. エンジン警告ランプ (EOBD) 
6. スピードメーター
7. ハイビーム表示ランプ 
8. 左折用インジケーター 

9. 右折用インジケーター 
10. 燃料残インジケーター 
11. ABS コントロールランプ (V200 のみ)
12. オイルチェックインジケーター
13. 時計

1. 電圧計

電圧計は現在のバッテリー電圧を表示します。

2. 走行距離計

走行距離計は、全体の走行距離 (ODO) または一回の走行距離 (TRIP) を示します。ODO と TRIP を切り替えるには、SET ボタンを短く押してください。

TRIP の走行距離をリセットするには、TRIP モードで SET ボタンを約 2 秒間押してください。

キロメートルからマイルに切り替えるには、ODO モードで SET ボタンを 5 秒間押してください。

3. 燃料計

燃料計は、燃料タンクにどのぐらいの燃料が残っているかを示します。この計器には 6 本のバーがあり、タンクが満タンの場合にはすべてのバーがブラックです。

燃料が少なくなると、各バーが上から下の方に、一本ずつ消えます。最後のバーだけ残る時にはそのバーが点滅しはじめ、タンク中に燃料がほとんど残っていないことを示します。すぐに燃料を補給してください。

4. タコメーター

タコメーターは、エンジンの現在の回転数を示します。

5. エンジン警告ランプ (EOBD)

イグニッションスイッチをオンにすると、ランプが点灯しますがエンジンの始動後に消灯します。警告ランプは、車両がシステムの故障を検出した場合に点灯します。その場合、診断ツールでの検査が必要になりますので購入店にご連絡ください。

6. スピードメーター

スピードメーターは現在の走行速度を示します。

7. ハイビーム表示ランプ

ハイビームがオンの時に点灯します。

ディスプレイと操作機能

Lambretta

8. 左折用の方向指示器 ◀

方向指示ランプが作動中に、インジケーターが点滅します。

9. 右折用の方向指示器 ▶

方向指示ランプが作動中に、インジケーターが点滅します。

10. 残燃料警告表示器

タンクに残っている燃料が少なくなった場合、燃料警告表示器が点灯します。すぐに燃料を補給してください。

CAUTION

燃料タンクが完全に空にならないように注意してください。燃料タンクが完全に空になるとエンジンが停止し、それにより車両の制御が喪失され事故が発生する可能性があります。

11. ABS コントロールランプ (V200 のみ)

イグニッションスイッチをオンにすると ABS コントロールランプが点灯します。スタート後、時速 5km に達すると ABS コントロールランプは消灯します。運転中にランプが点灯した場合は、ABS システムに障害が発生しています。ABS ランプが点灯している限り、ABS は作動してい

ません。そのような場合は取扱店へ連絡し、ABS システムの点検を依頼してください。

12. オイルチェック表示器

この表示器は、ユーザーにオイルのレベルを確認し、必要に応じて補給、交換を注意するように、1000km ごとに点灯します。

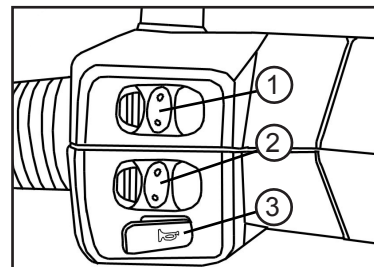
表示器をリセットするには：ODO モードで SET ボタンを 5 秒間押すと、表示器がリセットされます。

13. 時計

時計は現在の時刻を示します。

時間を設定するには：ODO モードで SET ボタンを 2 秒間押すと設定モードとなり、設定される桁が点滅します。SET ボタンを短く押すと桁が 1 つずつ上に移動します。設定ができれば SET ボタンを 2 秒間押して次の桁に移動します。設定が終わったら SET ボタンを 2 秒間押します。また、30 秒以上作用がない場合も設定された時刻が保存されます。

ハンドルバースイッチ (左側)



1. ハイビーム / ロービームスイッチ  / 
2. 方向指示器スイッチ ◀▶
3. ホーンボタン 

1. ハイビーム / ロービームスイッチ  / 
ハイビームにするには  に設定し、ロービームにするには  に設定します。

2. 方向指示器スイッチ ◀▶

右折を指示するには、ボタンを押してスイッチ全体を右側に動きます。左折を指示するには、ボタンを押してスイッチ全体を左側に動きます。方向指示器を消すには、ボタンを押してスイッチを中央に戻します。

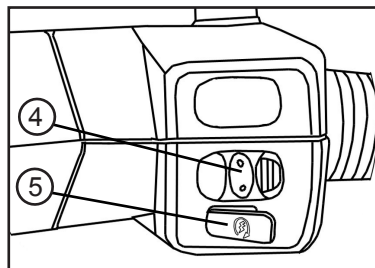
ディスプレイと操作機能

Lambretta

3. ホーンボタン

ホーンを鳴らすにはホーン  のボタンを押してください。

ハンドルバースイッチ（右側）



4. SET ボタン

5. エンジンスタートボタン

4. SET ボタン

SET ボタンは、ODO から TRIP への変更、時間の設定、マイルからキロメートルへの変更のような、ダッシュボードユニットとのいくつかの操作に必要です。

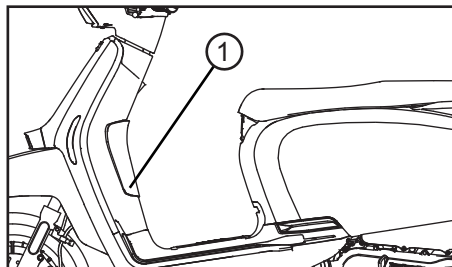
5. エンジンスタートボタン

エンジンを始動するためにはスタートボタン  を押し、ブレーキレバーを引きます。

CAUTION

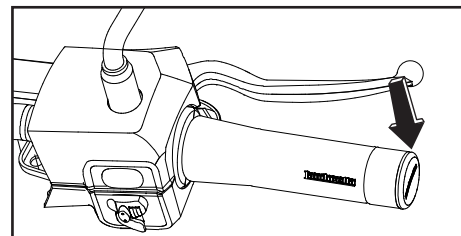
車両を始動する前に、取扱説明書にて車両の操作及び乗り方に関する重要なポイントを確認してください。

安全スイッチ

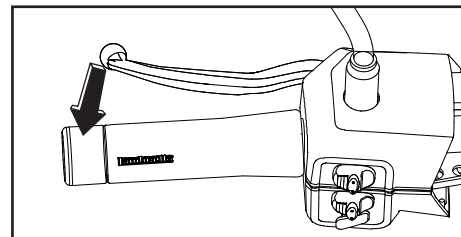


スイッチ (1) が「 (ロック)」の位置にあると、エンジンを始動することができません。

ブレーキレバー



フロントブレーキレバーはハンドルバードリッパの右側にあります。フロントブレーキをかけるには、このレバーをハンドルバードリッパの方に握ります。



リアブレーキレバーは、左側のハンドルバードリッパにあります。リアブレーキをかけるには、このレバーをハンドルバードリッパの方に握ります。

ディスプレイと操作機能

Lambretta

燃料タンクキャップ

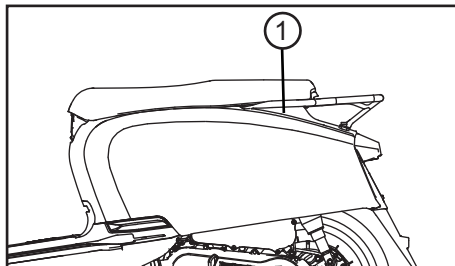
燃料タンクキャップはシートの下にあります。

燃料タンクキャップを取り外す (1)

燃料タンクキャップを反時計回りに回します。その後、燃料タンクキャップが取り外せます。

燃料タンクキャップを取り付ける

燃料タンクキャップを所定の位置に置きます。キャップを時計方向に元の位置に回します。



CAUTION

運転前に燃料タンクキャップが正しく閉められ、ロックされていることを確認してください。

燃料

タンクに十分な量の燃料があることを確認してください。燃料はタンクフィラーチューブの底部まで満タンにしてください。

⚠ WARNING

- ・ 燃料タンクをいっぱいにしすぎないでください。燃料タンクがいっぱいになると、燃料が暖められて膨張した時にこぼれる可能性があります。
- ・ 高温のエンジンに燃料をこぼさないでください。

CAUTION

燃料は塗装面やプラスチック部品に損傷を与える可能性があるため、こぼれた燃料は直ちに清潔で乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

無鉛ガソリンのみ。
推奨燃料：95 oct

！！注意！！

BIOETHANOL E10 の使用はできません

触媒コンバータ

この車種の排気システムには触媒コンバータが装備されています。

⚠ WARNING

排気システムは運転後に熱くなります。メンテナンス作業を行う前に排気システムが冷えていることを確認してください。

CAUTION

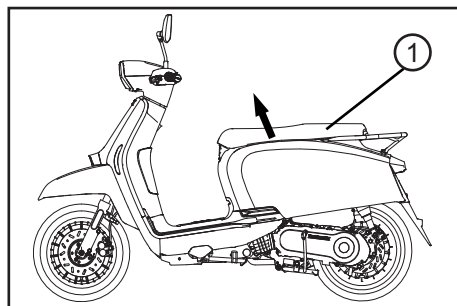
火災の危険やその他の損傷を防ぐため、以下の注意事項を守ってください。

- ・ 無鉛ガソリンのみ使用してください。有鉛ガソリンの使用は、触媒コンバータに修復不可能な損傷を引き起こします。
- ・ 芝生や他の燃えやすいものの近くなど、火災の危険の可能性がある場所には車両を駐車しないでください。
- ・ 長時間アイドリング状態にしないでください。

シート

シートを開くには

1. 車両をメインスタンドで立てます。
2. キーが「」（オフ）の位置にあるときにキーを押し込むことなく反時計方向に回します。
3. シートを上に持ち上げます。



シートを閉じるには

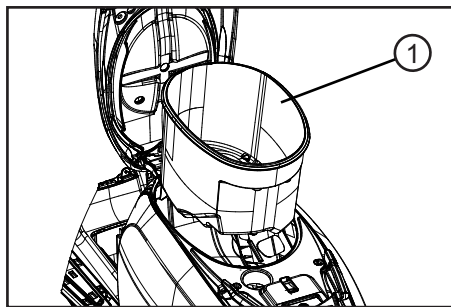
1. シートを下におろした後、シートを押し下げて所定の位置にロックします。

CAUTION

- ・ 無理にシートを閉めると、部品が損傷する場合があります。
- ・ 運転前または駐車時にはシートがロックされていることを確認してください。

荷物収納ボックス

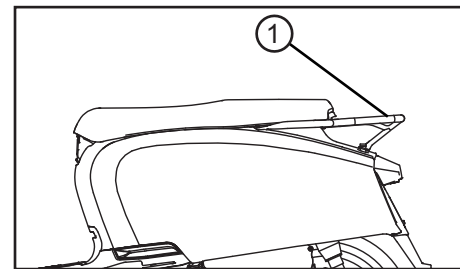
荷物収納ボックス（1）は、シートの下にあります。ボックスは取外し可能です。取外し後はヒューズおよびスロットル・ハウジングにアクセスが可能となります。



CAUTION

荷物収納ボックスは 10kg の重量制限を超えないでください。
荷物収納ボックスは太陽やエンジンからの熱が溜まるため、中に熱に弱いものを入れないでください。
荷物収納ボックスには貴重品や壊れやすい物を入れないでください。

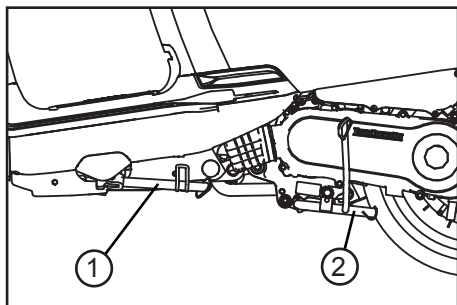
リアキャリア（オプション品）



CAUTION

リアキャリア（1）の指定重量制限を超えないでください。

サイドスタンド



サイドスタンド (1) は、車両の左側にあります。サイドスタンドを出すためには、ブラケットを足で踏み込みます。

CAUTION

- ・ スタンドがしっかりと機能し、車両が安定していることを確認してください。
- ・ 斜面や柔らかい地面を避け平らな場所に駐車してください。
- ・ サイドスタンドはエンジンストップ機能が装備されています。スタンドが格納されていない状態ではエンジンを始動することはできません。

メインスタンド

メインスタンド (2) は車両の下にあります。メインスタンドを立てるにはメインスタンドブラケットを踏み、車両を引き上げます。

CAUTION

車両が転倒しないようにきちんと駐車し、安定していることを確認してください。

前後連動ブレーキ (CBS) (V125 モデルのみ)

CBS (前後連動ブレーキ、「Combined Brake System」) は、オートバイの安全支援に貢献するブレーキシステムです。

この車両には1つのCBSが装備されています。左のブレーキレバーを操作すると、フロントブレーキとリアブレーキの両方を同時に作動し、前後ホイールの片方がロックする危険性を軽減します。

⚠ WARNING

リアブレーキレバーは前後両方のブレーキを作動しますが、オートバイを正しく減速するためにはフロントブレーキの操作も必要です。

アンチロックブレーキングシステム (ABS) (V200 モデルのみ)

ABS (アンチロックブレーキングシステム) は車輪のロックを防止するように設計されています。ブレーキを強く操作した際、ABS は前輪と後輪の 2 つの回路で動作します。ABS センサーが車輪のロックを検知した場合、再びホイールが回転するまで、わずかにブレーキ圧を減少させます。

ABS 作動時、ブレーキレバーに少し振動を感じます。ブレーキ操作は従来のオートバイと同様です。左のブレーキレバーがリヤブレーキを、右のブレーキレバーがフロントブレーキを作動させます。

ABS はホイールのロックを防止し安定した制動力を提供しますが、以下の特性を理解してください：

- ABS は悪路での走行、運転手の誤った判断、不適切な操作を補償することはできません。ABS を装備していない車両同様に注意をはらわなければなりません。
- ABS は制動距離を短くするように設計されてはいません。未舗装や、でこぼこの道、下り坂において ABS 装備のスクーターは ABS が装備されていない同等のオートバイの制動距離よりも長くなることがあります。そのような道では特に注意が必要です。

- ABS は、車体がまっすぐな状態でブレーキ操作をした際、車輪のロックを防ぐことに役立ちますが、コーナーリング中のスリップを制御することはできません。コーナーリングでは前後両方のブレーキを軽く操作するか、もしくは全く操作しない方が好ましいです。コーナーへ進入する前にスピードを落としてください。
- ABS に内蔵されたコンピューターは車速と車輪の速度を比較します。推奨のタイヤ以外では車輪速度に影響を及ぼしコンピューターが誤作動し、制動距離が延びる可能性があります。

運転前の確認

Lambretta

車両の状態を確認することはオーナーの責任です。重大な故障や事故を防止するためには、運転手が簡単でも十分に点検を行い、状態を確認しなければなりません。運転する前には次のことを注意深く確認してください。

CAUTION

運転前の点検は、車両を使用するたびに行う必要があります。この点検はとても短時間で行うことができます。点検を行うことで得られる安全性は、点検に使った時間より価値のあるものです。

⚠ WARNING

運転前確認リストのいずれかの項目が正しく機能していない場合は、車両を操作する前に修理してください。自分で修理できない場合は直ちに取扱店もしくは購入店にお問い合わせください。

運転前の確認表

確認項目	確認すること
燃料	燃料タンクの燃料レベルを点検すること。 必要に応じて補給すること。 燃料ラインに漏れがないか点検すること。
エンジン／トランスミッションオイル	オイルのレベルを点検すること。 必要に応じて、指定されたレベルに推奨オイルを入れること。 オイルの漏れがないか点検すること。
フロントブレーキ	操作を確認すること。 ブレーキのタッチが曖昧またはスポンジ状の場合は、取扱店にて油圧システムのエアを抜き作業をすること。 ブレーキパッドが摩耗していないか点検し、必要に応じて交換すること。 タンクのブレーキ液レベルを点検し、必要に応じて推奨ブレーキ液を指定のレベルまで加えること。 ブレーキ液の漏れがないか点検すること。
リアブレーキ	操作を確認すること。 ブレーキのタッチが曖昧またはスポンジ状の場合は、取扱店にて油圧システムのエアを抜き作業をすること。 ブレーキパッドが摩耗していないか点検し、必要に応じて交換すること。 タンクのブレーキ液レベルを点検し、必要に応じて推奨ブレーキ液を指定のレベルまで加えること。 ブレーキ液の漏れがないか点検すること。
スロットルグリップ	操作がスムーズであるか確認すること。 ケーブルの遊びを確認すること。 必要に応じてケーブルの遊び調整を取扱店に依頼し、ケーブルとグリップハウジングを潤滑すること。
ホイールとタイヤ	損傷がないか点検すること。 タイヤの状態と溝の深さを点検すること。 空気圧を点検すること。
ブレーキレバー	操作がスムーズであるか確認すること。必要に応じて、レバーのピボット部を潤滑すること。
メインスタンド／サイドスタンド	操作がスムーズであるか確認すること。必要に応じてピボット部を潤滑すること。
シャシー・ファスナー	すべてのナット、ボルト、ネジがきちんと締まっているか確認すること。必要に応じてこれらを締めること。
メーター、ライト、ターンシグナルとスイッチ	操作を確認し、必要に応じて調整すること。

操作と運転の重要なポイント

Lambretta

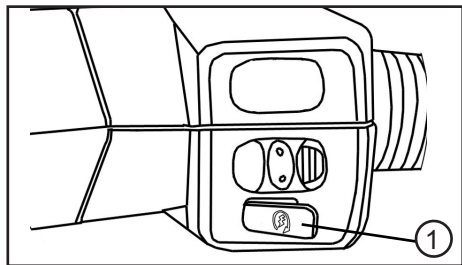
⚠ WARNING

- 運転前には、すべての操作、機能について十分に理解しているようにしてください。十分な理解ができていない場合は、取扱店／購入店にご相談ください。
- 排気ガスは有毒であるため、室内でエンジンを始動しないでください。排気ガスを吸い込むと、意識の喪失や死亡の可能性があります。

エンジンの始動

CAUTION

運転する前に、以下の「エンジンのならし運転」の内容を確認してください。



1. キーを ON (I) に回します。
2. 右のブレーキレバーを握ります。握らないとエンジンは始動しません。
3. スタートスイッチボタン (E) (1) を数秒間押します。

CAUTION

- エンジンを始動する時にはクランクを一回に 5 秒以上回さないでください。
- スタートボタンを押すと直ぐにエンジンが始動します。エンジン始動を再度試みる場合は、数秒後に操作してください。バッテリーとスタータの保護には、これらの操作をできるだけ短くする必要があります。

発進する

CAUTION

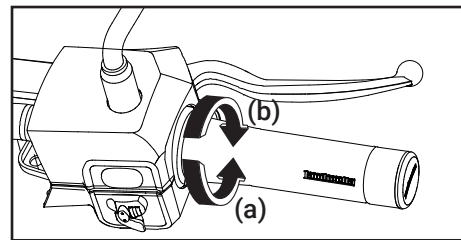
エンジンの損傷を避けるために、出発前にエンジンを暖気してください。

1. リアブレーキレバーを左手で握り、右手でシート下のグラブレールを持ちながら、車両をメインスタンドから押し出します。

2. シートにまたがり、バックミラーを調整します。
3. 方向指示器を曲がる方向に出します。
4. 対向車を確認して、スロットルグリップ (右手側) をゆっくりと回して発進します。
5. 方向指示器のスイッチを消します。

加減速

速度はスロットルを開閉することで調整できます。速度を上げるには、スロットルグリップを (a) 方向に回します。スピードを落とすには、スロットルグリップを (b) 方向に回します。



操作と運転の重要なポイント

Lambretta

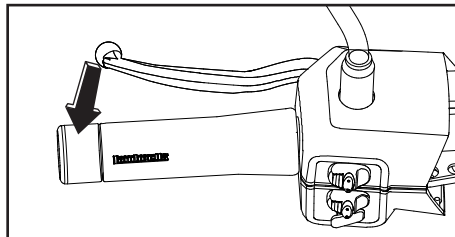
ブレーキ

- ・スロットルを完全に閉じます。
- ・徐々に圧力を上げながら、フロントブレーキとリアブレーキの両方を同時にかけます。

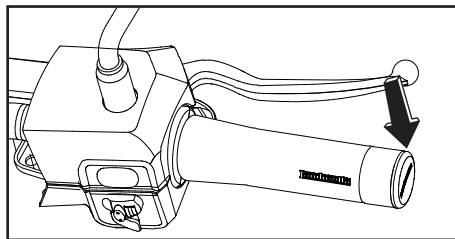
⚠ WARNING

- ・車両が滑ることを防ぐため、強くまたは急にブレーキをかけないでください。
- ・踏み切り、路面電車のレール、道路工事現場での鉄板、マンホールカバーは、濡れた時に非常に滑りやすくなります。そのようなところを走行する時は減速し、十分に注意してください。
- ・濡れた路面での制動操作は非常に難しくなります。十分に注意してください。
- ・下り坂での制動は非常に困難な場合があるため、坂をゆっくりと下るようにしてください。

リアブレーキ



フロントブレーキ



CBS (V125 モデルのみ)

車両に CBS が搭載されています。CBS については「ディスプレイと操作機能」を参照してください。

ABS (V200 モデルのみ)

車両に ABS が搭載されています。ABS については「ディスプレイと操作機能」を参照してください。

駐車

駐車する時はエンジンを切り、メインスイッチからキーを取り外します。

⚠ WARNING

エンジンと排気システムはエンジン停止後もしばらく高温であるため、歩行者や子供がこれら高温のところに触れない場所に車両を停めてください。車両が転倒しないように、斜面や柔らかい地面に車両を停めないでください。

エンジンのならし運転

最初の 1000km は過度の負荷をかけないでください。エンジンを構成する様々な部品は、正しく調整されるまで摩耗、磨きがかかります。その間、長時間のフルスロットル操作等、エンジンの過熱を招く恐れのある状態を避けられなければなりません。

CAUTION

エンジンのならし運転の期間中にエンジントラブルが発生した場合は、直ちに購入店に車両の点検を依頼してください。

定期メンテナンスと簡易修理

Lambretta

CAUTION

車両の安全性とその状態は、主に正しいメンテナンス、定期点検、調整、および潤滑の仕方によります。以下のページは、運転手がそのような技術を習得するために役立つ内容です。

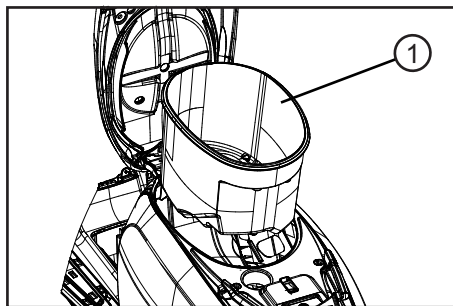
⚠ WARNING

排出ガス制御装置およびシステムのメンテナンス、交換、修理は法規制に従う許可を受けた整備工場または個人が行うことができます。

オーナーがメンテナンス作業に詳しくない場合は取扱店に依頼してください。

オーナーズツールキット

ツールキット（1）はリア荷物収容ボックスの中にあります。



このマニュアルに記載されているサービス情報とオーナーズツールキットに含まれているツールは、予防メンテナンス及びマイナー修理の実行を支援するためのものです。ただし、メンテナンス作業を正しく実行するためには、トルクレンチなどその他のツールが必要な場合があります。

CAUTION

修理をするために必要なツールや経験がない場合は取扱店にご相談ください。

⚠ WARNING

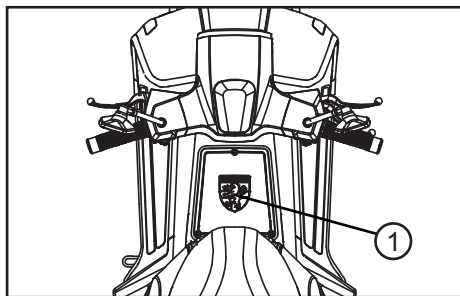
メーカーに承認されていない装飾、改造は、過度の排出ガスの放出を引き起こす可能性があります。また、車両の性能を著しく低下する可能性があります。オプション品の取り付け、改造を行う前に取扱店にご相談ください。

製造業者に許可されていない装飾、改造、整備をした場合、保証は無効になります。

定期メンテナンスと簡易修理

Lambretta

バッテリー・カバー



この章で説明されるメンテナンス作業の一部を実行するには、バッテリーカバー (1) を取り外す必要があります。

カバーを取り外す

ネジを外し、カバーを外します。

カバーを取り付ける

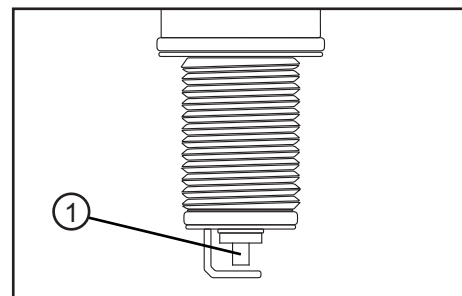
カバーを元の位置に置き、ネジを取り付けます。

点火プラグ

点火プラグはエンジンの重要な部品です。また、その点検が容易な部品です。点火プラグは熱と析出物によって徐々に性能が損なわれるため、メンテナンススケジュールに従い、定期的に点火プラグを取り外し、点検する必要があります。さらに、点火プラグはエンジンの状態を表すことがあります。

カバーを取り外す

1. カバーを取り外します
2. プラグキャップを取り外します
3. ツールキットに入っているレンチを使い点火プラグを取り外します。
4. 点火プラグの中心電極付近の磁器の絶縁体 (1) が中程度の黄褐色 (車両を正常に運転するときの理想的な色) であることを確認します。



CAUTION

点火プラグの色が明らかに異なる場合は、エンジンが正しく作動していない可能性があります。問題を自分で診断しようとすることはせず、取扱店にて車両を点検してください。

5. 点火プラグの電極腐食や過剰なカーボン等の付着がないか確認し、必要に応じて点火プラグを交換します。

指定点火プラグ：
NGK - CR7HSA

定期メンテナンスと簡易修理

Lambretta

⚠ WARNING

他のモデルの点火プラグは使用できませんのでご注意ください。異なる点火プラグを使用すると、エンジンが損傷する可能性があります。

6. 点火プラグのギャップをシックスネスゲージで測定し、必要に応じてギャップを規定値に合わせます。点火プラグのガスケットの表面とその接合面を清掃し、点火プラグのネジから汚れを拭き取ります。
7. プラグレンチで点火プラグを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

点火プラグギャップ：0,6 ~ 0,7 mm

⚠ WARNING

プラグ締め付時のトルクにご注意ください。トルク管理ができない場合は、取扱店に点火プラグの状態確認を依頼してください。

締め付けトルク：10 Nm

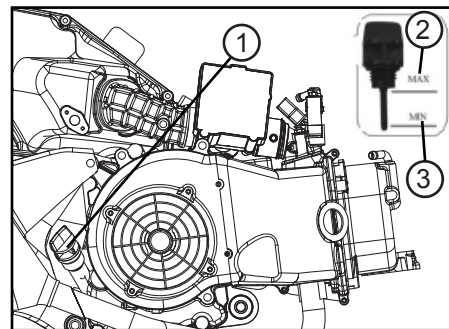
エンジンオイル

⚠ WARNING

給油毎にエンジンオイルの確認をお勧めします。

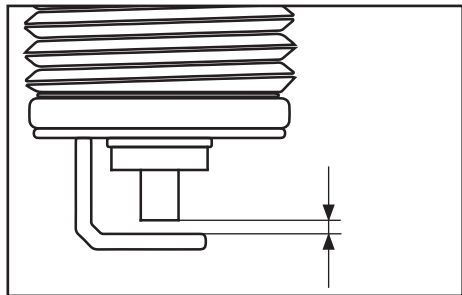
1. エン진을始動し、数分間暖気します。エンジンが暖かくなったら、エンジンを止め、その後1分間冷えるのを待ってから確認します。

2. メインスタンドを立て、オイルレベルゲージ (1) を取り出して清掃します。
3. オイルレベルゲージ (1) を取り付け直します。ネジは締めこまないでください。オイルレベルゲージ (1) を取り出して確認します。オイルレベルが上限 (2) と下限 (3) の間にあることを確認します。



CAUTION

運転前に、オイルレベルゲージが正しく取り付けられていることを確認してください。



定期メンテナンスと簡易修理

Lambretta

エンジンオイル容量：
0.7 L (オイル交換時)

粘度：10W-30

トランスミッションオイル

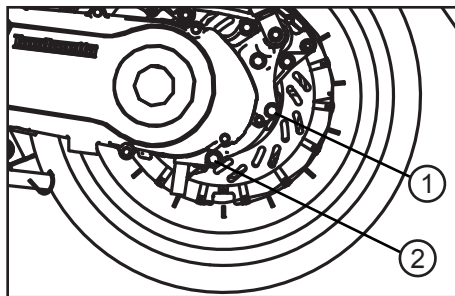
運転毎にファイナルトランスミッションケース (1) にオイルの漏れがないか確認する必要があります。漏れが見つかった場合は、取扱店に車両の点検と修理を依頼してください。また、トランスミッションオイルは、定期的なメンテナンススケジュールで指定された間隔で交換する必要があります。

CAUTION

車両が保証期間内の場合、トランスミッションオイルの交換は販売店の責任となります。

トランスミッションオイルを交換する

1. エンジンを始動し、数分間車両に乗ってトランスミッションオイルを暖かくしてから、エンジンを停止します。
2. 車両をメインスタンドで立てます。
3. 使用済みオイルを回収するために、トランスミッションケースの下にオイル受けを置きます。
4. トランスミッションケースからオイルを排出するために給油キャップ (1) と排出ボルト (2) を取り外します。



5. トランスミッションオイルのドレンボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：10-15Nm

6. 推奨のトランスミッションオイルを規定量入れ、給油キャップを取り付けます。

トランスミッションオイル容量：
0,17 L オイル交換

粘度：SAE 85W-90

⚠ WARNING

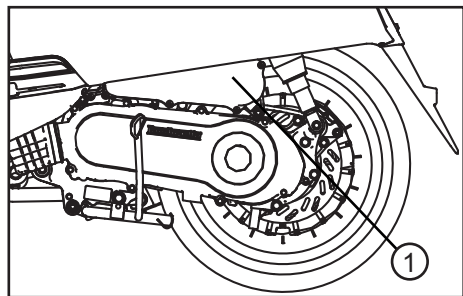
- ・トランスミッションケースに異物が入らないようにしてください。
- ・オイルがタイヤやホイールにかからないように注意してください。

7. オイル漏れがないかトランスミッションケースを点検します。オイルが漏れている場合は、取扱店にご連絡ください。

定期メンテナンスと簡易修理

Lambretta

エアフィルター



エアフィルターはメンテナンススケジュールに従って交換する必要があります。異常に湿度の高い場所や埃の多い場所で運転する場合、エアフィルターはより頻繁に交換してください。

エアフィルターを交換する

1. エアフィルターケース (1) を取り外します。
2. エアフィルターを取り外します。
3. フィルターを新しいものに交換する、またはフィルターを清掃します。
4. 密閉するため、エアフィルターケースとエアフィルターケースカバーの接合面にグリースを軽く塗ります。
5. エアフィルターを取り付けます。

6. エアフィルターケースカバーをネジで取り付けます。

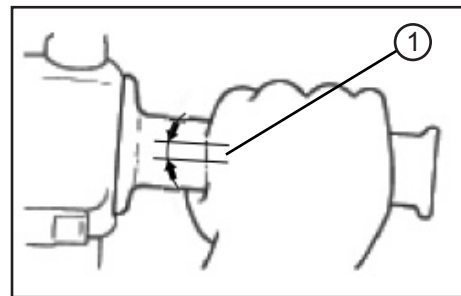
CAUTION

- エアフィルターエレメントがエアフィルターケースに正しく取り付けられていることを確認します。
- ピストンやシリンダが過度に摩耗することを防ぐため、エアフィルターエレメントを取り付けていない状態でエンジンを始動してはいけません。

ECU

ECU は、エンジンおよび排気制御システムの重要な部分であり、非常に高度な調整が必要です。したがって、ECU の調整は、専門知識及び経験を有する取扱店のスタッフに任せなければなりません。

スロットルケーブルの遊び



スロットルケーブル遊び (1) は 2 ~ 6 mm に調整します。

CAUTION

スロットルケーブルの遊びを定期的に確認し、必要に応じて取扱店にその調整を依頼してください。

タイヤ

車両の性能、耐久性、安全性を最大限に引き出すためには、タイヤに関する次の点にご注意ください。

定期メンテナンスと簡易修理

Lambretta

タイヤの空気圧

運転前にタイヤの空気圧を確認し、必要に応じて調整してください。

⚠ WARNING

タイヤの空気圧の点検と調整は、タイヤが冷えている時（すなわち、タイヤの温度が周囲温度に等しい時）に行われなければなりません。

タイヤの空気圧は、運転の状態に合わせて調整する必要があります。このような作業に詳しくない場合は、取扱店にご相談ください。

タイヤ空気圧：
フロント：1,75 bar
リア：2,0 bar

運転手、同乗者、荷物、アクセサリーの合計が総重量となります

⚠ WARNING

車両に過大な負荷をかけないでください。

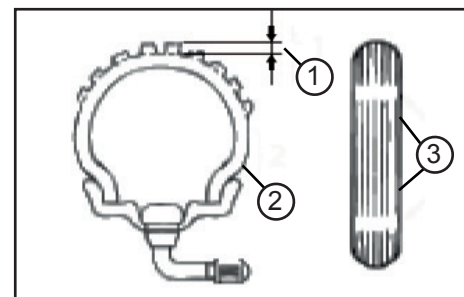
過大な負荷は、タイヤ、ブレーキ、ステアリングにかかる圧力を設計されたレベル以上に増加させ、損傷や事故を引き起こす可能性があります。

荷物の配分と車両の重量は、お客様の安全と車両の性能において非常に重要です。荷物は車両のみに積み込み、最も重い荷物を車両の中央に置き、重量を左右均等に分配します。これにより、積載後にも良好なステアリングの操作確保されるはずです。

最大荷重*：150 kg

* 運転手、同乗者、荷物およびアクセサリーの合計が総重量となります

タイヤ検査



1. タイヤトレッドの深さ
2. タイヤサイドウォール
3. タイヤ摩耗インジケータ

⚠ WARNING

出発前に毎回タイヤを点検する必要があります。タイヤが最小の溝の深さを示している場合、タイヤに釘やガラスの破片等の異物がある場合、またはサイドウォールにひびが入っている場合は、直ちに取扱店にタイヤ交換の依頼をしてください。

定期メンテナンスと簡易修理

Lambretta

CAUTION

トレッドの深さの規定は各国によって異なる場合がありますので地域の規制を遵守してください。ここに記載されている値は技術的な値であり、地域の法定の値と異なる場合があります。

タイヤトレッドの深さ：
フロント／リア：1,6mm 以上

⚠ WARNING

- ・摩耗したタイヤでの運転は違法であり、安定性を低下し、車両の制御の喪失を引き起こす可能性があります。
- ・摩耗したタイヤや損傷したタイヤは、すぐに取扱店に交換を依頼してください。

タイヤ／リムの寸法

フロント

リム：3.0 × 12
タイヤ：110 / 70-12

リア

リム：3.5 × 12
タイヤ：120 / 70-12

タイヤの種類：チューブレス

リム

車両の性能、耐久性、安全性を最大限に引き出すためには、ホイールに関する次の点にご注意ください。

- ・ホイールリムは、車両に乗る前に亀裂、曲がり、そりがなければ確認する必要があります。リムに損傷が見つかった場合は、取扱店に交換の依頼をしてください。多少の修正だとしてもホイールの修正は行わないでください。

変形したホイールや亀裂があるホイールは交換する必要があります。

- ・タイヤ及びホイールは、入れ替えまたは交換のたびに、ホイールバランスを取る必要があります。バランスのとれていないホイールは、性能の低下、ハンドル特性の悪化、タイヤ寿命の短縮の可能性があります。
- ・タイヤの表面が最適な特性を発揮するため、最初に「ならし」を行う必要があります。タイヤ交換後には適度な速度で走行してください。

ブレーキレバーの遊び

CAUTION

ブレーキレバーの端部に遊びがある場合は、取扱店へブレーキシステムの点検を依頼してください。

⚠ WARNING

ブレーキ操作時の感覚が曖昧またはスポンジ状の場合は、油圧システム内に空気が存在する可能性があります。油圧システム内に空気がある場合は、車両を運転する前に取扱店に混入した空気の抜き取

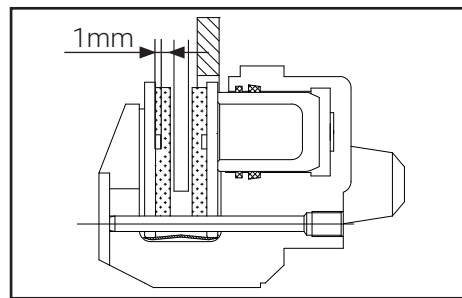
定期メンテナンスと簡易修理

Lambretta

り作業を依頼してください。
油圧システム内の空気は制動性能を低下し、制御の喪失および事故を招く可能性があります。

ブレーキパッド

ブレーキパッドの摩耗は、メンテナンススケジュールで指定された間隔で点検する必要があります。



各ブレーキパッドには摩耗インジケータ（ノッチ）が装備されていますので、ブレーキを分解することなくブレーキパッドの摩耗を点検することができます。ブレーキパッドの摩耗を点検するには、摩耗インジケータがブレーキディスクに接触し

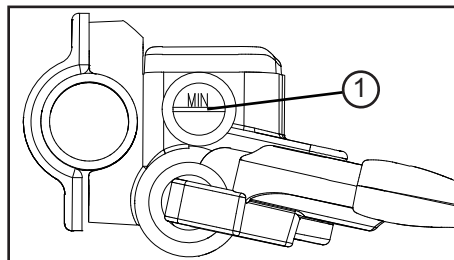
ているかどうかを確認します。ほぼ接触している場合は、取扱店にブレーキパッドをセットで交換の依頼をしてください。

ブレーキ液

⚠ WARNING

ブレーキ液が不足すると、ブレーキシステムに空気が入り込み、ブレーキ操作が無効になる可能性があります。

運転前にブレーキ液がミニмумレベルマーク（1）を超えていることを確認し、必要に応じて補充してください。



- ブレーキ液の液面が低い場合は、摩耗したブレーキパッド、またはブレーキシステムの漏れを示している可能性があります。
- ブレーキ液の液面が低い場合は、ブレーキ

キパッドの摩耗やブレーキシステムの漏れがないか点検してください。

- 液面を確認するときには、ハンドルを動かしてマスタシリンダの上部が水平になっていることを確認してください。
- 推奨品質のブレーキ液のみを使用してください。推奨品以外の使用はラバーシールが劣化し、漏れやブレーキ性能の低下を引き起こす可能性があります。

ブレーキ液 DOT 4
(未開封のブレーキ液のみ使用してください)

- 同じ種類のブレーキ液で補充してください。複数の液体を混ぜると、有害な化学反応が起こり、ブレーキ性能が低下することがあります。
- 補充の際は水がマスターシリンダーに入らないように注意してください。ブレーキ液の沸点が著しく低下し、ベーパーロックを引き起こす可能性があります。
- ブレーキ液が塗装面やプラスチック部品を劣化させることがあります。こぼれた液体は直に取り除いてください。

定期メンテナンスと簡易修理

Lambretta

- ・ブレーキパッドが摩耗すると、ブレーキ液の液面が徐々に低下します。ただし、ブレーキ液が急に低下した場合は、取扱店に点検を依頼してください。

ブレーキ液を交換する

⚠ WARNING

メンテナンススケジュールに指定されている間隔でブレーキ液の交換を取扱店に依頼してください。

ケーブル

乗車の前にすべてのケーブルの動作と状態を確認し、必要に応じてケーブルとケーブルの端を潤滑してください。ケーブルが損傷している場合、またはスムーズに動かない場合は、取扱店に点検や交換を依頼してください。

⚠ WARNING

ケーブル外側のハウジングの損傷は内部に錆を発生させ、ケーブルの動きを妨げることがあります。

危険な状態を防止するために、損傷したケーブルは早急に交換してください。

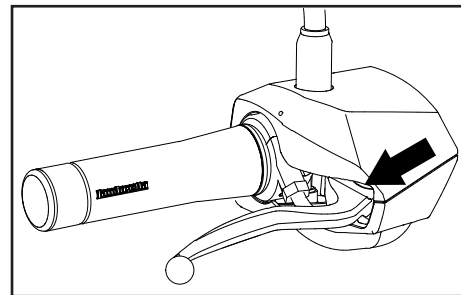
スロットルグリップとケーブル

スロットル・グリップの操作は、出発する前に毎回確認する必要があります。さらにケーブルは、定期メンテナンススケジュールで指定された間隔で潤滑する必要があります。

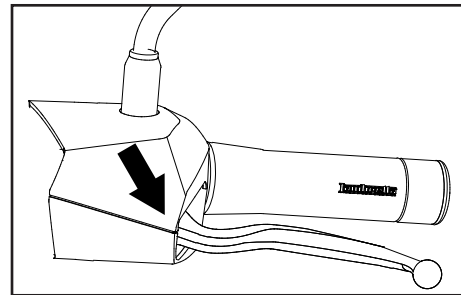
ブレーキレバーを潤滑する

フロントとリアブレーキレバーのピボット部は、定期メンテナンススケジュールで指定された間隔で潤滑する必要があります。

フロントブレーキレバー



リアブレーキレバー



定期メンテナンスと簡易修理

Lambretta

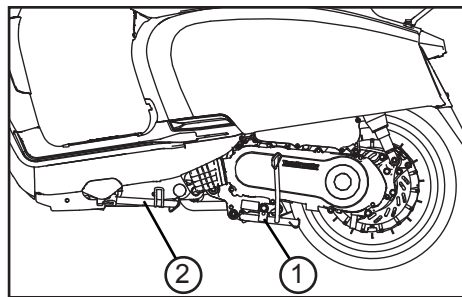
メインスタンド／サイドスタンド フロントフォーク

CAUTION

メインスタンド (1) とサイドスタンド (2) の動作は、運転前に毎回確認し、必要に応じてピボットと金属の接触面を潤滑してください。

⚠ WARNING

- スタンドがスムーズに動かない場合は、取扱店に点検または修理を依頼してください。
- サイドスタンドにはエンジンストップスイッチが装備されています。スタンドが収納されていない時にエンジンを始動することはできません。

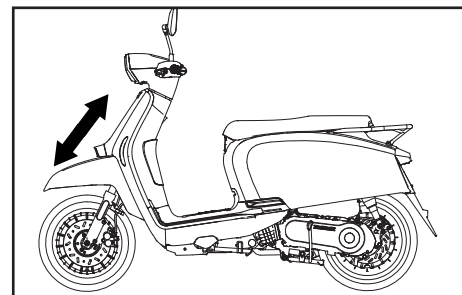


フロントフォークの状態および操作は、メンテナンススケジュールで指定された間隔で次のように点検する必要があります。

⚠ WARNING

車両が転倒する危険がないようにしっかりと車両を支えてください。

1. 車両をメインスタンドで平らな地面に置きます。
2. インナーチューブに傷、損傷、油の漏れがないか点検します。
3. 車両をメインスタンドから外し、フロントブレーキをかけ、ハンドルバーを数回強く押し下げて、サスペンションがスムーズに動くことを確認します。



⚠ WARNING

- フォークが損傷している場合は取扱店にご連絡ください。
- テレスコピックフォークに洗剤を使用する場合は、洗剤がタイヤやブレーキに付着しないように注意してください。重大な事故につながります。

定期メンテナンスと簡易修理

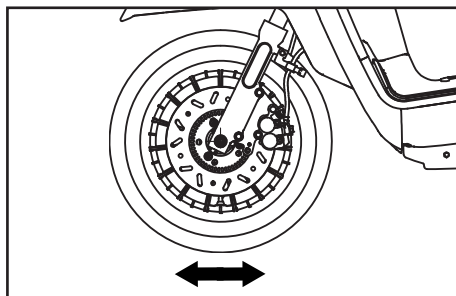
Lambretta

ステアリング

⚠ WARNING

摩耗もしくは緩んだ状態のステアリングベアリングは危険です。ステアリングの動作はメンテナンススケジュールで指定された間隔で次のように点検する必要があります。

1. センタースタンド／適切なオートバイスタンドに車両を置き、フロントホイールを地面から持ち上げます。
2. フロントフォークの下端を持ち、前後に動かしてみます。
3. がたつきを感じる場合は、取扱店に点検を依頼してください。



ホイールベアリング

フロントとリアのホイールベアリングはメンテナンススケジュールで指定された間隔で点検する必要があります。

CAUTION

ホイールハブにがたつきある場合、またはホイールがスムーズに回転しない場合は、取扱店にホイールベアリングの確認を依頼してください。

バッテリー

このモデルはメンテナンスフリーのバッテリーを採用しています。電解液を点検したり、蒸留水を加えたりする必要はありません。

⚠ WARNING

- 危険ですので、バッテリー通気シールを取り外さないでください。バッテリーが回復不能な損傷を受ける可能性があります。
- バッテリー液は有毒で危険です。硫酸を含んでおり、重度の火傷につながります。
- 皮膚、目および衣類との接触を避けてください。バッテリーの近くで作業するときは常に目を保護してください。
- バッテリー液に触れた場合、即時応急措置を行ってください。
- 皮膚や目がバッテリー液と触れた場合は、患部を十分な水で洗い流してください。
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合は、多量の水を飲んでください。
- いずれの場合も、早急に医師に相談してください。

定期メンテナンスと簡易修理

Lambretta

- ・バッテリーは爆発性の水素ガスを発生させます。はだか火、喫煙材をバッテリーから離し、室内でバッテリーを充電するときに十分な通気があることを確認してください。
- ・このバッテリー及びそのほかのすべてのバッテリーは子供の手の届かない場所に保管してください。

バッテリーを充電する

バッテリーが放電した場合は、できるだけ早くバッテリーを充電してください。車両に電気付属品が追加されている場合、バッテリーはより早くに放電する傾向がありますので注意してください。

バッテリーを保管する

- ・車両を1ヶ月以上使用しない場合は、バッテリーを取り出して完全に充電し、涼しく乾燥した場所に置きます。
- ・バッテリーが2ヶ月以上保管される場合は、少なくとも月に一回点検し、必要に応じて完全に充電してください。
- ・バッテリーを車両に取り付ける前に完全に充電してください

- ・バッテリーを取り付けた後、バッテリーのケーブルがバッテリーの端子に正しく接続されていることを確認してください。

⚠ WARNING

バッテリーの取り扱いに詳しくない場合は、取扱店にご連絡ください。

CAUTION

バッテリーを常に充電した状態で保管してください。放電されたバッテリーを保管すると、バッテリーが損傷する可能性があります。

バッテリーを清潔にする

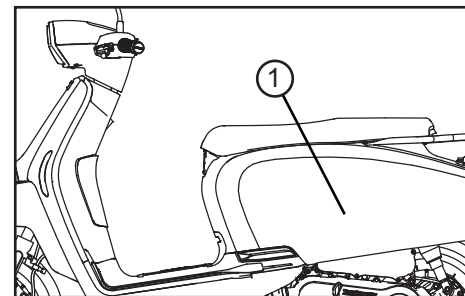
このバッテリーはメンテナンスフリーのタイプですが、清潔にする必要があります：

- ・エンジンを停止します。
- ・バッテリーカバーを取り外します。
- ・マイナスケーブルとプラスケーブルをバッテリーから取り外します。
- ・端子の汚れや腐食を掃除します。
- ・ケーブルを再び取り付ける前に、端子にグリースを少し付けます。
- ・最初にプラスケーブルを付け、次に

マイナスケーブルを付けます。

ヒューズ

ヒューズホルダー(1)は、荷物収納ボックスの下にあります。



ヒューズを交換する

1. キーを「OFF」の位置に回し、すべての電気回路をオフにします。
2. シートを開けて、荷物収入ボックスを取り出します。
3. ヒューズを取り外し、指定されたアンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

定期メンテナンスと簡易修理

Lambretta

指定されたヒューズ：
10、15、20 A

⚠ WARNING

電気回路の重大な損傷や火災を避けるために、推奨値より高いアンペア数のヒューズを使用しないでください。

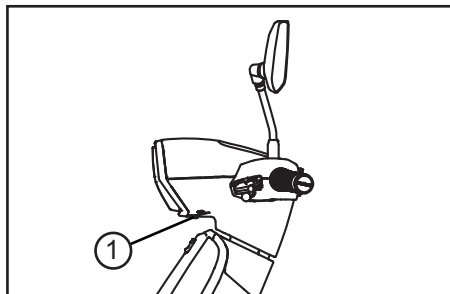
4. キーを○の位置に回し、電気回路をオンにして、デバイスが動作しているかどうかを確認します。
5. ヒューズが再度、すぐに切れる場合は、取扱店に電気システムの確認を依頼してください。

ヒューズ	回路
10 A	ライト
10 A	スターターリレーヒューズ
15 A	EFI 及びメインスイッチ
20 A	バッテリー

ライト

この車両のすべてのライトは LED を採用しています。ランプが損傷した場合は、取扱店に連絡して交換してください。

ヘッドライトの調整



ヘッドライトビームを調整することができます。

ヘッドライトの下にあるネジを緩めて調整します。調整後、ネジを締め直します。

全ての Lambretta は、出荷前に徹底した検査を受けています。運用中にトラブルが発生、例えば、燃料、圧縮、または点火システムに問題が発生した場合に始動能力の低下や、電力が失われる可能性があります。

次のトラブルシューティングチャートは、これらの重要なシステムを自分で迅速に確認するための簡単な手順を示しています。ただし、車両の修理が必要な場合は取扱店にご相談ください。取扱店の熟練したスタッフは、車両の修理を行うための必要な工具、経験、ノウハウを持っています。

純正の交換部品のみを使用してください。模造品は本物の部品のように見えるかもしれませんが、性能が劣っていて寿命が短く、より高価な修理が必要になる可能性があります。

⚠ WARNING

燃料システムの点検、作業中は、はだか火を避け、喫煙はしないでください。

トラブルシューティングチャート

故障	原因	すべきこと
セルスタートボタンを押してもエンジンが始動しない	バッテリーが放電している	バッテリーを充電する
		バッテリーの充電を確認する
		ジェネレータが正しく動作しているかどうか確認する
	ヒューズが切れている	ヒューズを点検する
	スターターリレーが不良である	スターターリレーを点検する
セルは回るがエンジンが始動しない、または停止する	スターターモーターが不良である	スターターモーターを点検する
	ヒューズが切れている	ヒューズを点検する
	アイドリングが正しく設定されていない	原因特定のため取扱店に連絡する
	点火プラグが汚れている	点火プラグをきれいにする
	点火システムが故障している	点火システムを点検する

トラブルシューティング



トラブルシューティングチャート

故障	原因	すべきこと
セルは回るがエンジンが始動しない、または停止する	ワイヤーハーネスが摩耗している	ワイヤーハーネスを点検する
	プラグの接触到問題がある	ワイヤーハーネスの接続を点検する
	タンクにガソリンがない	ガソリンを補充する
	燃料ポンプに問題がある	燃料ポンプを点検する
	燃料が漏れている	燃料回路を点検する
エンジンの出力不足	エアフィルターが汚れている	エアフィルターを清掃する
	燃料システムが故障している	燃料システムを点検する
	点火システムに問題がある	点火システムを点検し、取扱店に連絡する
	バルブクリアランスが小さすぎる	バルブクリアランスを調整するため、取扱店に連絡する
エンジンがオーバーヒートする	エンジン回転数が高いが運転スピードが遅い	エンジンを冷やして、そのような運転行動を避ける（特に都市部の交通において）
オイル消費が高すぎる	エンジンのオイルレベルが高すぎる	オイルレベルをの指定されたレベルに調整する
	シリンダー／ピストンが摩耗している	シリンダー／ピストンを交換するため取扱店に連絡する
	エンジン冷却が正しく機能しない	エンジン冷却システムを点検する
エンジン警告灯が点灯している	燃料噴射／電気系が故障している	不具合を特定するため取扱店に連絡する
液晶パネルが真っ黒になり見えなくなった	過度の高温や低温の状態に液晶パネルがさらされた	液晶パネルを過度の高温や低温から避け、常温に戻す

車両の清掃

車両を適切に清掃することは、車両の魅力を上げ、その寿命を延ばし、性能を最適化することができます。

清掃する前に

1. エンジン／マフラーを冷やします。水が内部に入らないようにマフラーの出口をキャップで覆います。
2. 内部に水が入らないようにすべてのキャップ、カバー、及び電気コネクタを覆います。

CAUTION

- ・酸性の洗剤は使用しないでください。そのような洗剤を頑固な汚れに使用する必要がある場合は、その製品を重点的に使用し、終わったら直ちに乾燥させ、腐食保護スプレーを塗布してください。
- ・ケアおよび洗浄剤に関して製造業者の指示に従ってください。
- ・損傷を防ぐため、水や中性洗剤、もしくは専用の洗剤を使用してください。車両の傷つきやすい部品や、プラスチック

ク部分は柔らかい、乾いた布またはスポンジを使用し、洗車後によく乾かしてください。

- ・プラスチックの部品、ペイント部品、ヘッドライトのガラスを燃料、錆除去剤、ブレーキクリーナーなどの化学薬品の使用は控えてください。そのような化学薬品の使用は車両の誤動作と損傷を引き起こし、且つ安全性に影響を与える可能性があります。
- ・高圧洗浄機またはスチームクリーナーを使用しないでください。スチームクリーナーを使用すると、ベアリング、コネクタやスイッチなどの電気部品、照明、換気ホース、ブレーキシューとブレーキライニングなどに水が浸入する可能性があり、シール、塗料やその他の表面を損傷する可能性があります。

通常の使用後の清掃

暖かい水、中性洗剤と柔らかく清潔なスポンジで汚れを取り除き、浄水で十分にすすぎます。届きにくい部分には歯ブラシやボトルブラシを使用してください。

雨が降っている時や海の近く、または融雪剤が散布された道路を走行後の清掃

CAUTION

冬期に道路に散布される融雪剤は腐食性が非常に高いため、乗車後に次の手順を実行してください。

- ・エンジン／エキゾーストが冷却されるまで待ちます。
- ・暖かい水と中性洗剤で車両を清掃してください。
- ・温水は塩分による腐食性が増しますので、温水を使用しないでください。
- ・腐食を防止するために、クロームまたはニッケルメッキされた表面を含むすべての金属の表面に腐食防止のスプレーを塗布してください。

清掃後

- ・車両を乾かします。
- ・錆を防止するため、メーカーの指示に従って適切にケアすることををお勧めします。
- ・すべての塗装面をワックスで磨きます。

⚠ WARNING

- ・ブレーキやタイヤにオイルやワックスがないことを確認してください。
- ・必要に応じて、ブレーキディスクとブレーキライニングをブレーキクリーナーで清掃し、温水と中性洗剤でタイヤを洗ってください。
- ・車両を操作する前に、ブレーキ性能とタイヤの性能を確認してください。

保管

短期間（数日間）

- ・車両は常に涼しく乾燥した場所に保管し、必要に応じて車両用のカバーで埃から保護してください。

⚠ WARNING

可能であれば、乾燥した空気が流れる換気の良い部屋に車両を保管してください。湿気のある所は錆を発生させます。

長期間（数週間）

- ・車両を清掃します。
- ・燃料タンクを満タンに補充するか、必要に応じて燃料タンクを錆から保護し、燃料を劣化から保護するための安定剤を加えます。

錆を防止するためには、シリンダー、ピストンリングなどに以下の手順を実行してください。

- ・プラグキャップと点火プラグを取り外します。
- ・プラグホールにティースプーン 1 杯分のエンジンオイルを入れます。
- ・セルボタンを短く、数回押しシリンダーにオイルを注ぎます。（短時間のみ！）
- ・点火プラグを元に戻し、プラグキャップを取り付けます。

⚠ WARNING

- ・この作業を行う時には、点火プラグが車両の金属部分と接触していないことを確認してください。説明されているように、すべてのケーブル、レバーのピボット部、フットレストとキックスタンドに油をさします。

- ・タイヤの空気圧を点検、調整し、前後のホイールのどちらも地面に接触しないように車両を持ち上げます。それが不可能な場合は、タイヤがずっと同じ場所で接地しないように（スタンドダメージ）毎月、ホイールを少し前方に回します。水分の侵入を防ぐため、プラスチック製の袋を排気口の上に置きます。説明通りにバッテリーを取り外し、充電してください。バッテリーを冷暗所に保管し、2ヶ月ごとに充電してください。過度に寒い場所や過度に熱い場所にバッテリーを保管しないでください。（0℃未満または 30℃以上）。

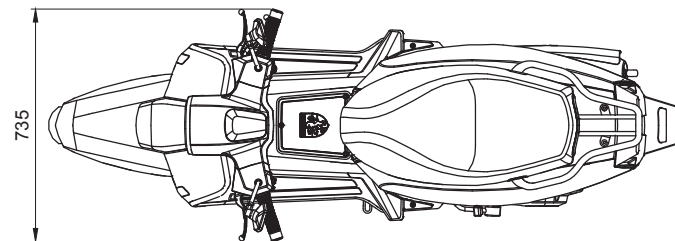
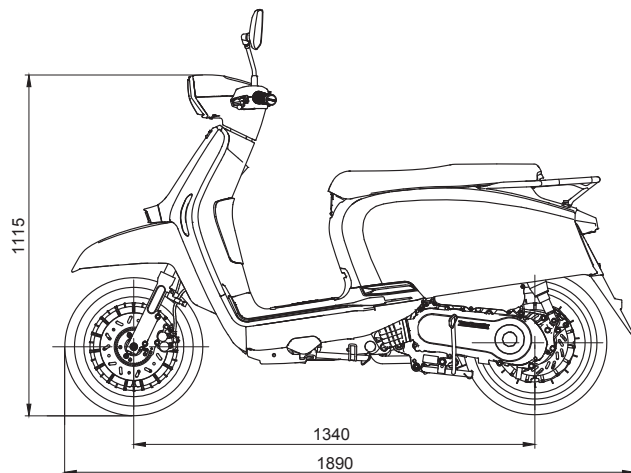
CAUTION

保管の前に必ず必要な修理を行ってください。

仕様

Lambretta

寸法



エンジン / () 内は V200 モデル	
形式	4 ストローク、強制空冷
シリンダー配列	単気筒
変位	124,6 cm ³ (168.9cm ³)
圧縮比	10,7:1 (10.2:1)
始動システム	電気式始動装置
潤滑システム	ウエットサンプ

エンジン・オイル	
粘度	4 ストローク・エンジン・オイル 10W-30
容量	0.7L

トランスミッション・オイル	
粘度	SAE 85W-90
容量	0.17L

燃料	
形式	無鉛ガソリンのみ
容量	6,0 +/- 0,2 l
注意	! バイオエタノール燃料 - E10 の使用禁止 !!

エアフィルター	
形式	ペーパーエレメント

ECU	
製造業者	SYNERJECT

スパークプラグ	
製造業者	NGK
形式	CR7HSA
点火プラグギャップ	0,6 - 0,7 mm

クラッチ	
クラッチの形式	自動遠心、乾式
変速機の形式	V ベルトオートマチック

シャシー	
形式	スチールチューブバックボーン

タイヤ	
フロントタイヤ	
リム	3,0 × 12
タイヤ	110/70-12
タイヤ空気圧	1,75 bar
リアタイヤ	
リム	3,5 × 12
タイヤ	120/70-12
タイヤ空気圧	2,0 bar
負荷等、必要に応じタイヤの空気圧を調整してください!	

ブレーキシステム／（ ）内は V200 モデル	
フロントブレーキ	
形式	シングル油圧ディスクブレーキ
サイズ	226mm
操作	右手／左手 CBS （右手 ABS）
リアブレーキ	
形式	シングル油圧ディスクブレーキ
サイズ	220mm
操作	左手
ブレーキ液	
形式	DOT4
サスペンション	
フロントサスペンション	
形式	テレスコピックフォーク
スプリング／アブソーバー形式	コイル・スプリング／油圧ダンパ
リアサスペンション	
形式	ユニットスイング
スプリング／アブソーバー形式	2x ガス／オイルダンパー

電気システム	
点火システム	ECU
充電システム	ECU Magneto

バッテリー	
電圧、容量	12 V, 6 Ah
USB コネクタ	5V 2A

ランプ	
ヘッドライト	LED
テールライト／ブレーキライト	
フロントターンシグナルライト	
リアターンシグナルライト	
ナンバープレートライト	

ヒューズ	
ヒューズ	10, 15, 20 A

車両を操作する前に取扱説明書をよく読み、車両の取り扱いに慣れるようにしてください。保証に対する要求が認められるためには、取扱説明書に記載された説明、メンテナンス、およびケアの指示に従う必要があります。取扱説明書に記載されている仕様に厳密に従うことで、お客様の車両の使用限度が長くなります。最新の基準に従い、部品および車両の正確性に対し、車両登録後、納車日から 12 ヶ月間の保証が与えられています。保証に法的な規制が制限されることはありません。メンテナンス作業は、認可されたランプレッタ製品の取扱店によってのみで行われなければなりません。保証は一般的に、車両が購入された国でのみ実施することができます。不適切な使用、不適切な操作、またはメンテナンス／ケア／操作の指示の無視を原因とする損害は保証対象外となります。発生した損害を購入者によって購入店または他のランプレッタ製品取扱店にただちに報告された場合にのみ、保証が付与されます。保証請求は購入者に対し、当社の承認後に認定された取扱店により、欠陥のある製品の修理、破損された部品の修理またはその交換の権利を与えます。間接的または瞬間的な損害に対する補償は認められません。購入者の事情により不動状態の車両は保証対象外です。保証による修理作業は保証期間を延長するものではありません。お客様はこの文章によってのみ保証サービスを受ける権利があります。したがって、購入店が完全に記入した文章をお客様に引き渡し、当社のシステムに正しく車両を登録したことを確認してください。以下のアドバイスにもご注意ください。

車両は常に汚れのない状態に保管されなければなりません。高圧洗車、刺激が強く腐食性のある洗剤、または表面への傷、塗装、腐食を起こす恐れのある洗剤は使用しないでください。保護効果のあるクリーナーの使用は不可欠です。適切な製品に関しては取扱店にご相談ください。酸化防止のため、アルミニウムの部品、またはその他の洗練された部品（クローム部品、アルマイト部品またはその他の加工面）は適切なメンテナンス製品を使用する必要があります。フレームと金属部品は継続的に防錆剤で処理しなければなりません。

シートやプラスチック部品に、風化や亀裂が形成されることを避けるため、常に屋外に駐車される車両はその表面を覆う必要があります。ダッシュボードユニットに採用されている液晶パネルは、その特性上過度の高温にさらされると一時的に真っ黒になり表示が見えなくなることがあります。一般に常温になると元の表示に戻りますが、過度の高温や低温は寿命に影響します。また、これに伴う液晶パネルの損壊は保証の対象外となります。オフロードやレースで車両をした場合は保証対象外となります。

サービスおよびメンテナンス作業で使用される品目及び以下の部品は保証対象外です：電球、ブレーキパッド、クラッチライニング、フィルタエレメント、スパークプラグ、ホイールおよびアクスルやタイヤ。

重要な情報

メンテナンスの実施日は、走行距離もしくは運行開始日からの経過時間のいずれか先に至った時期になります。

このメンテナンススケジュールに従って整備され、異常な環境にさらされていない場合にのみ保証を付与することがきます。

WARNING

お客様の車両に必要な適切な作業

CAUTION

点火プラグ、燃料フィルター、エアフィルターは 7000 km ごとに交換する必要があります。

油圧ラインは 4 年ごとに交換する必要があります。

ブレーキ液は 2 年ごとに交換する必要があります。

13000km 走行後、または 4 年目から少なくとも年に 1 回または 3000km ごとに点検を実施する必要があります。

車両は継続的に錆がないか点検する必要があります。防錆のための作業は車両オーナーの責任となります。

次のページには、メンテナンススケジュールとサービス記録について記載されています。

メンテナンススケジュール

点検の訪れる期間		1000km	4000km または 1 年	7000km または 2 年	10000km または 3 年	13000km または 4 年
部品	実行すること					
エアフィルター	清掃／交換	✓	✓	交換	✓	✓
ホイール／リム	点検	✓	✓	✓	✓	✓
タイヤ	溝の深さ／空気圧の点検		✓	✓	✓	✓
ホイールベアリング	点検／交換		✓	✓	✓	✓
ステアリングベアリング	点検／清掃／潤滑	✓	✓	✓	潤滑	✓
ネジのカバー部品	点検／増し締め		✓	✓	✓	✓
ブレーキシステム	点検／清掃／交換		✓	✓	✓	✓
サイドスタンド	点検／清掃／潤滑		✓	✓	✓	✓
テレスコピックフォーク	点検		✓	✓	✓	✓
リアショックアブソーバ	点検		✓	✓	✓	✓
オイルストレーナ／スピンフィルター	清掃	✓		✓		✓
エンジン・オイル／オイルフィルター	交換／点検	交換	✓	交換	✓	交換
トランスミッションオイル	交換	✓		✓		✓
バルブ	点検／調整	✓	✓	✓	✓	✓
バリオマチックベルト	点検／交換		✓	交換	✓	
バリオマチックローラー	点検／交換		✓	交換	✓	
ドライブ・チェーン／ピニオン	点検／清掃／交換	✓	✓	✓	✓	✓
クラッチ	点検	✓	✓	✓	✓	✓
ケーブル／ボデー	点検／清掃／潤滑	✓	✓	✓	✓	✓
スロットル	点検／調整／潤滑		✓	✓	✓	✓
ライト／スイッチ	点検／調整	✓	✓	✓	✓	✓
燃料ライン／フィルター	点検／交換		✓	交換	✓	✓
アイドリング回転数	点検／調整	✓	✓	✓	✓	✓
排気システム	点検／増し締め		✓	✓	✓	✓

サービスとメンテナンス

Lambretta

サービス記録

車両が渡される際、お客様の情報及び車両データを補記入する必要があります。

メンテナンス間隔：納車点検 走行距離計の値： _____ 日付： _____ スタンプ／署名	メンテナンス間隔：1000km 走行距離計の値： _____ 日付： _____ スタンプ／署名	メンテナンス間隔：4000 km または 1 年 走行距離計の値： _____ 日付： _____ スタンプ／署名
メンテナンス間隔：7000 km または 2 年 走行距離計の値： _____ 日付： _____ スタンプ／署名	メンテナンス間隔：10000 km または 3 年 走行距離計の値： _____ 日付： _____ スタンプ／署名	メンテナンス間隔：13000 km または 4 年 走行距離計の値： _____ 日付： _____ スタンプ／署名
メンテナンス間隔：16000 km 走行距離計の値： _____ 日付： _____ スタンプ／署名	メンテナンス間隔：19000 km 走行距離計の値： _____ 日付： _____ スタンプ／署名	メンテナンス間隔：22000 km 走行距離計の値： _____ 日付： _____ スタンプ／署名

車両識別番号： _____ お客様の名前： _____

モデル： _____ お客様の署名： _____





メモ

Lambretta

ディストリビューター：

KSR Group GmbH
Im Wirtschaftspark 15
3494 Gedersdorf
Austria

著作権は、同社／製造業者が
所有しています：

Lambretta GmbH
Im Wirtschaftspark 15
3494 Gedersdorf
Austria

Copyright © 2018

著作権所有。

この取扱説明書は著作権によって保護されています。製造業者の書面による許可を得ず、機械的、電子的またはその他の形式での複製は禁止されています。製品および仕様は予告なしに変更することがあります。

Lambretta

lambretta.com

Part of **Lambretta** Consortium



INNOCENTI
innocenti.com

製品および仕様は予告なしに変更することがあります。